



# シンポジウム：HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？

謹啓

現在、わが国には約 3 万人の HIV 感染者がいると言われております。幸い、抗レトロウイルス療法の進化により HIV のコントロールができるようになりましたが、HIV 感染症は予後が改善し慢性疾患になったがゆえに、乗り越えなければならない医療・介護上の課題が増えています。そこでこの度、受入れ困難が問題となっている領域の先生方にお集まりいただき、単刀直入にその阻害要因を議論していただくことにしました。是非、HIV 感染症に関わっておられる医師や医療従事者、行政職の皆様、その他の関係者にお集まりいただき、一緒にお考えいただき阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

敬白

令和元年9月吉日

世話人 国立国際医療研究センター 腎臓内科 日ノ下 文彦

◆日時 2019年11月16日(土) 午後2時00分～午後5時15分

◆プログラム(予定):

- ・開会の辞 「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班 横幕 能行 研究班長
- ・講演 1 「長期療養および介護領域における HIV 感染症受入れの阻害要因」(2:05-2:45 pm)  
司会: 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 葛田 衣重 先生  
演者: 名古屋医療センター相談支援センター 浅海 里帆 先生 他
- ・講演 2 「歯科領域における全国ネットワーク作りと受入れの阻害要因」(2:45-3:25 pm)  
司会: 名古屋医療センター エイズ総合診療部長 横幕 能行 先生  
演者: 名古屋医療センター 歯科口腔外科部長 宇佐美 雄司 先生
- ・休憩
- ・講演 3 「北海道 HIV 透析ネットワーク作りとネットワーク成功の秘訣」(3:35-4:05 pm)  
司会: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦  
演者: 北海道大学病院血液内科 診療准教授 遠藤 知之 先生
- ・講演 4 「全国的な HIV 透析ネットワークの展開と受入れの阻害要因」(4:05-4:20 pm)  
司会: 武蔵野赤十字病院 腎臓内科 副院長 安藤 亮一 先生  
演者: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦
- ・パネルディスカッション「HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」  
(4:20-5:10 pm) 司会: 日ノ下 文彦  
パネリスト: 横幕 能行 先生、葛田 衣重 先生、浅海 里帆 先生、宇佐美 雄司 先生、遠藤 知之 先生、  
安藤 亮一 先生、さいたまつきの森クリニック 栗原 怜 先生、  
澤歯科医院 澤 悦夫 先生、国立国際医療研究センター病院 ACC 池田 和子 先生、  
国立病院機構東埼玉病院 武藤 陽子 先生、医心館 運営本部地域連携部 八島 美奈子 先生
- ・閉会の辞 東京都透析医会 会長 安藤 亮一 先生 (5:10 pm)

◆場所 東京コンベンションホール京橋 中会議室 II-A・B (東京スクエアガーデン 5 階)

◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。

◆問合せ先 国立国際医療研究センター腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで

TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncgm.go.jp

主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」